

平成29年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立呼子小学校		
2 所在地	唐津市呼子町呼子 3000 番地 1		
3 校長名	音成 隆		
4 学級数 児童生徒数	13 学級 237人	5 実施学年 児童生徒数	5 年 43人

6 取組のねらい

高齢者疑似体験、難聴者体験、ユニバーサルデザイン見つけ、高齢者との交流などを通して、UDについての理解を深めるとともに、相手を尊重する心や思いやりの心を育むことを目指す。

7 取組の実際

テーマ 「共に生きる」～UDでひと・まちにやさしさを～

(1)全体計画（全40時間）

小単元	主な学習内容	時間
1	<u>UDって何だろう？</u> ～いろいろな困り感を体験してみよう～ ア) 高齢者疑似体験をしてみよう イ) 耳の不自由な体験をしてみよう ウ) 車いす体験をしてみよう	10
2	<u>町のUDを探そう</u> ～呼子町にもUDはあるかな？～ ア) グループで町のUDを探しに出かけよう イ) 見つけたUDをお互いに発表しよう！	9
3	<u>自分にできることを考え、実践しよう</u> ～私にできることは～ ア) 町に「UDサイン」を掲示しよう イ) 高齢者の方と交流をしよう	11
4	<u>学習をまとめよう</u> ～これからの「生き方」を考える～ ア) 「イカす発表会」で、全校・保護者・地域に伝えよう イ) これからの「生き方」を考えよう	10

(2) 授業の実際

<小单元1> UDって何だろう？

～いろいろな困り感を体験してみよう～

【10時間】

ア) 高齢者疑似体験をしてみよう

階段を降りるのも大変です。手すりがないと怖いです。



おはしも持ちにくいし、目もぼんやりしているので、豆がうまくつかめません。何度もこぼしてしまいました。



文字がぼやっと見えません。何円なのか数字もよくわかりません。大きな文字だったら読めます。



■ 児童の感想

僕が驚いたのは、体に付けたサポーターや重りより、目の不自由なことが大変だったことです。高齢者の方がどんな思いをしているのかよく分かりました。

高齢者の方が階段を上る時、こんなに辛い思いをしていると分かりました。文字を読む時、薄い字は読みにくくて濃い字が見やすかったです。

前に体重がかかるので、少しの段差でもつまずいて転びそうになり、とても苦労しました。困っているおじいちゃん、おばあちゃんにはその困ったことを何か手伝っていきたいです。

誰かが「そこ、階段があるよ。」と声をかけてくれたのが心強かったです。

イ) 耳の不自由な体験をしてみよう



<耳栓をつけて話してみました>

友だちと話をしてみました。何とか聞こえる時もありますが、聞こえない言葉もあります。



<補聴器体験をしました>

補聴器で音は大きく聞こえますが、声だけでなくいろんな音が大きくなりやかましかったです。



<感想交流をしました>

私たちのクラスには補聴器を付けている友だちもいます。はっきり話すことが大事だと分かりました。

■ 児童の感想

どのくらいの大きさの声でしゃべっていいのかわかりませんでした。聞こえないから、友だちとの会話に入りづかったです。

聞こえる言葉と聞こえない言葉がありました。みんなは笑っているのに、私は聞こえなかったから何を言っているのかわかりませんでした。

補聴器は、小さな音が大きく聞こえて「ガチャガチャ」していました。だから、発表した後の拍手はとてもうるさいと感じました。

耳の不自由な人と話すときは、口をハキハキとして話すといいと思いました。手話はできないけど、身ぶり手ぶりをするといいかなあとと思いました。

私は、耳の不自由な人と話すときは「ゆっくりしゃべること」「口を大きくあけること」「身ぶりをつけること」が大事だと思いました。

ウ) 車いす体験をしてみよう

体育館のマットをこえてみました。小さな段差も車いすでこえるのは難しいです。一人ではできませんでした。





外に出てみました。水道のじゃ口に近づきましたが、手が届きませんでした。普段は気づかない小さな段差もいろいろな所がありました。



坂道は特にきついです。友だちだけでなく、社会福祉協議会の方にも手伝ってもらいました。下りは、特にこわいと思いました。「曲がります。下ります。」の声も大事だと分かりました。

■ 児童の感想

不安があったけど、友だちが声をかけてくれたので安心できました。声をかけ、目と目を合わせたら、どれだけ安心できるのか初めて知りました。

車いすに乗って坂道を降りるのはこわいので、「坂道を下ります。」と言ってあげると安心すると思います。

車いすが斜めになるとき予想以上に上がってとても不安でドキドキした。友だちを押すときはとても重く、うまく体を使わないと押せないと分かりました。

車いすに寄りかかっていると重くなるんじゃないかと思っていたけれど、寄りかかっている方が介助しやすいと聞いてびっくりしました。

車いす体験をして、私は介護する人、される人の気持ちに気付くことができました。段差を上る時も介護される人は少し浮くから怖くなるし、介護する人は上手にできるかなあと不安になりました。

<小単元2> 町のUDを探そう

～呼子町にもUDはあるかな?～ 【9時間】

ア) グループで町のUDを探しに出かけよう

訪問する施設に自分たちで電話をしてアポイントをとりました。何度も練習をしてかけました。



スーパー①:多目的トイレは、車いすでも入りやすくできています。縦横に手すりがついていました。



スーパー②:点字を見つけました。調べたら「困った時はインターフォンで話してください。」と書いてありました。



警察署:階段には手すりがついています。お年寄りもつかまって、安心して上って行けるとおもいます。



郵便局:低い机がありました。車いすの方や子ども、お年寄りなども楽に書けます。



銀行:筆談コーナーを設けてありました。耳の不自由な人でも安心して係の人に尋ねることができます。

イ) 見つけたUDをお互いに発表しよう



■ 児童の感想

郵便局に見学に行くと、いろいろな工夫を見つけました。ATMには点字があったりインターフォンでサポートしてくれたりします。耳の不自由な人も紙に書いて係員さんとコミュニケーションをとることで苦勞を少しでもなくそうとしています。トイレは、社員用と同じなので車いすは使いにくいと思いました。

スーパーでは、高い所にハウレンソウが並べてあるとちゃんと低い所にも並べられていました。公衆電話も低い所にあり、車いすでも使えると思いました。荷物が通路の真ん中にドンと置かれていたので、そこはなおした方がいいと思いました。

車いすの人、高齢者、体の不自由な人になったつもりで、始めに調べることを決めてから警察署に行きました。男子トイレには段差をなくすように板でスロープがあったのに、女子トイレにはありませんでした。玄関入口の一番近くに車いす専用の駐車スペースがありました。でも、1台分しかありませんでした。

銀行の受付には、手話ができる方がいました。筆談ボードも用意されていて、すごいなあと思いました。

<小单元3> 自分にできることを考え、実践しよう

～私たちにできることは？～

【11時間】

ア) 町にUDポスターを掲示しよう

UD探しをしたら、呼子町にはお年寄りや体の不自由な方には不便なところがあることに気付きました。自分たちにできることは何か考え、町内の施設に自分たちが考えた「UDポスター」を掲示してもらうことにしました。



<大綱引き会館の玄関に>

大綱引き会館に入る時は、段差がありました。高齢者や子どもはつまずきやすいし、車いすの人も段差があることを知らせたいと思って、このポスターを作りました。



<スーパーマーケットの公衆電話近くに>

公衆電話の場所が分かりにくかったので、タクシーの絵の中に受話器を描いたポスターを作りました。高齢者の方がタクシーを呼ぶときも場所がすぐに分かると思います。



<警察署の玄関近くに>

玄関のすぐ横の駐車場を体の不自由な方、高齢者の方に優先して使ってもらえるようなポスターを考えました。これがあると、この場所を空けておいてもらえると思います。



<公衆トイレの入口に>

公衆トイレの入り口にはりました。ここには、段差があったからです。このポスターがあると、みんなが気をつけて通ると思います。本当は、段差がない方がいいと思います。

イ) 高齢者の方と交流をしよう

お年寄りと触れ合って楽しむことも自分たちにできることではないかと意見がでました。そこで、学校の近くの高齢者福祉センターにデーサービスできている方と交流することにしました。

1組は一緒にボーリングゲームをしました。ストライクには、大きな拍手がありました。

輪投げゲームはなかなか難しかったです。お年寄りと混合チームで優勝を争いました。

肩たたきにとっても喜んでくださいました。最高齢は97歳と聞いてビックリしました。





2組は「トントン紙相撲」を準備しました。相撲ファンでテレビをいつも観るそうです。



赤とんぼなどの唱歌を歌いました。一緒に歌ってくださる方もたくさんおられました。



感想を交流しました。「ありがとね」と言われ、「やってよかったなあ。」と感じました。

■ 児童の感想

施設の職員の方は、高齢者の方にゆっくり、はっきり大きな声で話していました。聞こえなくてもやさしく接していました。しかも、笑顔でした。

職員の方は座って耳元で話していました。僕は立って上から話していたので、反省しました。

肩たたきでは、「気持ちいいよ。ちょうどいいよ。」など、おっしゃってくれました。歌でも感動して泣いている方もいらっしゃいました。私たちが考えた計画は、大成功だと思いました。

90歳以上の方もいたけど、みんな明るく楽しく活動できたと思います。もっともっと長生きしてほしいと思いました。

これまでは高齢者の方とあまり触れ合うことが少なかったけど、また、こういう機会があると、ぜひ、参加していきたいです。

<小单元4> 学習をまとめよう

～これからの「生き方」を考える～

【10時間】

ア) 「イカす発表会」で全校・保護者に発信しよう

これまで学んだこと、体験したことをまとめ、「イカす発表会」で発信しました。それぞれのグループで台本を考え、実演を取り入れながら全校のみんなや保護者、地域の方に向け、発表しました。

<高齢者疑似体験>



<高齢者との交流会>



<ポスター作製>



イ) これからの「生き方」を考えよう

学習最後のまとめとして、UDについて学んだことをもとに、自分が変わったこと、これから自分にできることは何かを真剣に考えました。

私は、この学習で人と接することはとてもよい事だと分かりました。一人が優しくすると相手はうれしくなり「ありがとう」と言う。それを言われた自分もうれしくなる。それを見ていた人もうれしくなる。その出来事でたくさんのやさしさ、うれしさが広がるととってもすばらしいと思います。



この勉強のおかげで、昨日いいことができました。両手に荷物を持っている人がいて、ドアを自分から開けてあげることができました。お母さんが「やるね～」と言ってくれたのでうれしかったです。ちょっとした行動でみんながよろこぶので得した気分になりました。

「自分には何もできない」と思っていたけれど、本当にやってみて「何もできないんじゃないじゃなくて努力すればできる」ことに気づきました。見て見ぬふりをせず、助けてあげることに変わりそうです。自信もついたし、実際にできたので変わると思います。

高齢者に対して思いやって助け合うことが大事なので、そういう力が自然について来たんだと思う。ぼくの生活が明るく、楽しい毎日になっていくと思う。

病院でおばあちゃんがつえをついていて、自動ドアじゃなかったもので、ドアを開けて、「どうぞ」とかの声がかげられた。そこが、自分が変わってきたところです。

学校帰りにおばあちゃんたちといっしょに話したりあいさつしたりできるようになりました。最近では、地区の人とおしゃべりをしたりしてにぎやかです。こうできるようになったのは、UDのおかげです。

この学習で車いすの人には介護をしたり、難聴者には大きな声で話すなど、いろいろな人に関心をもてるようになり、行動しようとも思いました。高齢者の方には、これまでなにもせずに見ぬふりをしていた自分が分かってそんな自分を直そうと思いました。

この学習で、私の家には2人の高齢者がいるという意識をもつことができました。これまでの態度があまりにもひどかったと分かって、もう少し改めようと思うことができました。

8 取組の成果と課題

<成果>

○様々な人が社会の中で生活していることに気付き、困り感などにも目を向けられるようになった。自分から関わるのが大切だと思うようになった子もいる。授業後、スーパーで進んで高齢者に手を貸したり、地域で話しかけたり、自分の祖父母を手伝ったりといったことを実践できた子もいた。

○子どもの気付きを大切にしたいと、体験を重視した学習計画をたてた。自分たちの町を弱者の視点で見直すことができた。

<課題>

▲学校としても初めての取組で、見通しが十分にもてないこともあった。全体の時間の配分をしっかりと立てておかないと時間がかかり過ぎることもある。

▲福祉センターでの交流活動は、1回目の活動での課題を生かして、再度交流をする方がより質が高まった。1回だけの交流になってしまったのが残念である。



▲全校の発表会は、子どもたちの発信や発表も充実していたので、もう少し規模の小さい他学年や学級の保護者に紹介してもよかったと思う。そうすることで、相手意識もさらにもてると思う。

▲社会の中のユニバーサルデザインについて、インターネットなどで調べる活動も組み込めたら、町への発信、提言の幅、内容も広がったと思う。